

「空手道で一番苦しかったこと」

受験日：平成 26 年 4 月 6 日

西東京本部 浜田山支部

大井 秀敏

ご近所さんに誘われて、息子と娘の三人で入門した月心会でしたが、最初のうちはどうも「子供の付き添い」気分が抜けずに継続すること自体が苦痛になることもありました。しかし息子や娘に気合の足りないときなど、大声で怒鳴りつけてくれる先輩のリーダーの方たちの真剣さに触れるにつれ、やがて子供たちよりもむしろ真剣に空手に向き合っている自分が居ることに気づきました。ただ多くの先輩が指摘されているように、これは弱い自分との戦いでもありました。仕事による多忙、加齢による疲労感、etc.. 言い訳を考えれば際限なく出てくるのですが、子供の手前、それがなかなか言い出せずに渋々稽古に赴く。。。挫折しそうになったこともありましたが、親として子供の手前、見栄を張ることの大切さも教えていただいたような気もしております。

考えてみれば、以前私は子供たちに何かしら注意するときに頭ごなしに怒鳴るように物を言っていたようなことが多かったように思います。しかし空手を始めてからは、親がまず真剣に稽古に励むところを率先して見せて、その背中を見て学ばせるということも段々と出来るようになってきた、と感じております。入門時から流れた時間を今ふり返って、空手を通して親として学ばせていただいた事、成長させていただいた事の多いことにあらためて驚かされます。

腰痛悪化などで下半身がほとんど使えず、肉体的につらいこともありましたが、続けていればきっと道は開けるということが、親として子供たちに身をもって示せたということは得がたい経験だったと思います。もともと子供たちと共有できる時間の少ない父親ですが、同じ目標をもって、同じ目線で続けていける月心会の親子空手に出会えたからこそ、このような機会が得られたのであり、とても感謝をしております。

最後になりましたが、入門から四年数ヶ月、大きな目標に近づくことが出来たのも宗家、市川本部長、畠山支部長、そのほかの黒帯のリーダーの皆様、そして一緒に稽古に励んでいる多くの仲間のおかげです。心からお礼を申し上げます。この節目を境に空手を通じてさらに子供たちとの結びつきを強め、また私個人も精進していこうと思っております。